

広島県農業会議だより

がんばる農ひろしま



平成23年度全国農業委員会会長代表者集会



1 平成24年新年 会長あいさつ	2	7 農業者の取り組み	6
2 全国農業委員会会長代表者集会	2	8 女性農業委員リレー	6
3 第14回全国農業担い手サミットin長野	3	9 「農の雇用事業」の実施状況について	7
4 平成23年度第2回農業委員等研修会	4	10 農業法人等に対する指導相談窓口	7
5 新規就農者意見交換会	5	11 図書紹介	8
6 廿日市市農業委員会の取り組み	5	12 編集後記	8

広島県農業会議

広島市中区大手町4丁目2番16号
TEL 082-545-4146 FAX 082-246-1825

広島県農業会議

検索

<http://h-kaigi.jp/>

1 平成24年新年 会長あいさつ



藏田広島県農業会議会長

明けましておめでとうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

また、平素から、農業会議の業務推進につきまして格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、3月に東日本大震災が発生し、東北地方を中心に、建造物の倒壊、津波、火災などに加えて、原子力発電所事故に伴う放射性物質漏れにより、多くの尊い生命が失われるなど、未曾有の大災害となりました。そしてその後は、環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）交渉参加問題が加わり、農業に大きな影となって参りました。

農業委員会系統組織としましては、「東日本大震災からの復興と食と農の再生に向けた要請」を政府・国会に行うとともに、TPP交渉参加は、国益を損ねる恐れがあり、東日本大震災の復旧・復興に逆行することを強く訴えて来ました。引き続き今後の推移

を注視し、農業の再生に向けて努力して参る所存でございます。

広島県農業会議としましては、農業・農村現場で頑張っておられる農業者や住民の方の思いを受け、明るく希望の持てる農業・農村の将来が展望できるよう、農業委員の皆様と共に、農業者の公的代表機関としての責任と自覚を持ち、関係機関と連携協調し、地域の課題解決に取り組んで参りたいと思います。

本年が皆様にとりまして輝かしい年となりますようご祈念申し上げますとともに、今後とも農業委員会系統組織のより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願いしまして、新年のあいさつとさせていただきます。



2 全国農業委員会会長代表者集会



広島県から参加された皆さん



全国農業新聞紙面づくりの現場見学風景

12月7日、東京都千代田区の砂防会館において、平成23年度全国農業委員会会長代表者集会が開催され、県内17市町の農業委員会会長が参加されました。

集会では要請決議の採択の他、講演、農業委員会活動報告が行われました。

農業委員会制度・組織に関する検討会座長の高木

賢氏（元食糧庁長官）による講演では、新農地制度の着実な実施に向け、農業委員会の役割が強化され、目に見える活動実績が求められる農業委員会の活動を広く一般に知ってもらう取り組みが必要である。農業者の代表の行政委員である農業委員としてできる範囲の地道な活動を一つ一つ確実に実施して行っ

てほしい、と期待を語られました。

農業委員会活動事例発表では、埼玉県深谷市農業委員会による耕作放棄地実態把握活動で収集された売買・貸借を希望する情報をホームページで公開する「アグリハローワーク」の取り組みにより解消につながった事例の報告のほか、女性農業委員活動（長野県飯島町農業委員会）、震災復興復旧活動（宮城県仙台市農業委員会）の実践事例が報告されました。

また、要請決議として「東日本大震災からの復興と食と農の再生」、「TPP交渉への参加反対を求める」の2項目が採択され、大会終了後に本県選出国会議員への要請活動を行い、翌日には全国農業会議所において「農業委員会の情報活動である全国農業新聞の紙面作りを行う編集現場見学」を行いました。

3 「第14回全国農業担い手サミットin長野」開催



全体会でお言葉を述べられる皇太子殿下

11月15日～16日に全国の担い手等1600名が一同に集い「集まろう日本の屋根に語ろう明日の農業をアルプスに響け! 夢ある農業」をテーマにしたサミット及び「平成23年度全国優良経営体表彰式」が開催されました。

広島県からは、(農)むくなし、(農)ユートピアかみなか、(有)重永農産、(農)さわやか田打、広島市認定農業者協議会、広島県稲作経営者会議、関係機関、合計14名が参加しました。

全体会では、主催者を代表し長野県の阿部守一知事が「日々の農業、明日の農業について大いに語り合い、自らの農業経営の現況や課題について認識を深める中で、自らの農業、地域の農業を夢ある農業

に創り上げる契機にしてほしい」と挨拶されました。

ご臨席賜った皇太子殿下からは「皆さんが研さんを深められ、さまざまな困難や課題を克服され、日本農業を担って行かれることを願います」とのお言葉をいただきました。

表彰式では、庄原市東城町で菊を栽培する(有)マムガーデンミヤオが法



全国担い手育成総合支援協議会会長賞を受賞した(有)マムガーデンミヤオ取締役宮尾豊氏

人経営体部門で、また世羅郡世羅町の集落法人（農）さわやか田打は集落営農部門で、それぞれ、全国担い手育成総合支援協議会会長賞表彰を受けました。

また、優良経営体表彰農林水産大臣賞を受賞した3経営体の基調報告や夢ある農業に向けてのパネルトークが行われました。

サミット宣言は、「急激な国際化の進展や東日本大震災により国民の価値観が大きく変化する中、農業は生命と健康を守る重要な役割を担っているという認識のもと、農地を最大限に活用し、食糧自給率の向上を目指す」「次代を担う農業者の育成や集落営農の組織化を進め、6次産業化などに取り組み、持続可能な力強い地域農業の実現を目指す」「全国の担い手は、「助け合い」を通じた人と人との「絆」、「つながり」の大切さを再認識し、大震災等の被災地の農業復興に向けて支援を続けるとともに、夢ある日本

農業の発展と豊かな地域づくりに貢献します」の3項目が宣言され採択されました。

16日は県内の担い手が経営する農園・農場での現地研修を26コースに分かれて行われました。



4 平成23年度第2回農業委員等研修会



平成23年度農業委員等研修会

と農地違反転用への適切な対応など、農業委員会の適正な事務実施や、一般企業の農業参入の現状と参入する場合の課題について講演があり、農業委員等は熱心に耳を傾けていました。

さらに、今回は全国農業会議所職員も講師として参加し、農業委員に対して、情報提供活動への積極的な取り組みと協力を強くお願いするなど、全国農業新聞と全国農業図書を活用した農業委員会活動のより一層の推

進を呼びかけました。

農業会議では、今後も農業委員会が改正農地制度の適正・円滑な運用や農業・農村の活性化に重要な役割を発揮することができるよう、研修又は情報提供などを通じて積極的に支援していきます。



11月21・22・24日の3日間、県内3会場（福山キャッスルホテル、三次グランドホテル、八丁堀シャンテ）で、平成23年度第2回農業委員等研修会を開催し、県内農業委員414名（75%）が参加しました。

研修会では、冒頭、農業会議担当者から、農業委員会組織の見直しをめぐる動きなど農業委員会を取り巻く情勢の報告や、来年度からスタートする予定の新規就農・農地集積対策に関する新規予算事業の紹介・説明を行いました。続いて、広島県農業技術課及び農業担い手支援課職員から、特別職の地方公務員でもある農業委員の職務遂行に向けての心構え

5

新規就農者意見交換会

12月14日、世羅町「せら香遊ランド」において、法人就農者の意見交換会が開催されました。

県内の15集落法人に就農されている16人の就農者から、日常の業務や雇用環境について様々な意見が出されました。

最初に事例発表があり、就農者が農業法人の理事として経営に参画し、経営の大きな役割を担っておられる（農）清藤（岡山県真庭市）の平泉繁さんから、就農から現在までの経過報告が行われました。

その後の意見交換会では、就農者から農業について熱意をもった発言が聞かれたほか、農業の労働環境は厳しいこと、集落法人経営の方向性が定まっていないこと、法人の役員と議論できる機会が欲しい等の率直な意見が出されました。



意見交換会の様子

集まった就農者のほとんどの人は、将来は自立就農や集落法人での継続雇用を希望されており、地域農業の担い手として期待されています。

今後ともより一層、就農者を確保するためには、農業も他産業並の雇用環境整備が必要となっており、雇用する側としての意識改革と雇用に関する知識習得が求められていると思います。

6

廿日市市農業委員会の取り組み



廿日市市農業について語り合う農業委員と担い手農家

若い就農者の声を聞き今後の委員会活動や農業施策に反映しようと、廿日市市農業委員会（梶原安行会長）による担い手農家との意見交換会が11月4日に市役所で開催されました。

冒頭、梶原会長が「農業を取り巻く環境は厳しい。就農者の皆さんの話を聞いて手助けができるような環境づくりをしたい」とあいさつされ、新規就農者

や就農予定者17人と、同委員会委員21人、市職員合わせて約50人が、市の農業の課題や営農の労苦など、5グループに分かれて意見を交わされました。

就農者からは、「地元農業委員さんには農地のこと、栽培のことなどいつも気に掛けていただいて助かっている」「地域との橋渡し役を期待している」などの意見や、「利用可能な農地情報がほしい」との意見が聞かれたほか、野菜を栽培する男性からは「地場農産物のブランド化を、市を挙げて取り組んで欲しい」「新規就農者の定着化を図る長期的・継続的な施策を望む」、現場で視察をしながらの意見交換を望むなどの声も上がっていました。

農業委員からは「今回の意見交換会で感じる事ができた。若い農業者の情熱溢れる思いと行動力は、今後の委員会活動の参考となる。もっと農業委員の力を活用して欲しい」との感想が聞かれました。

農業委員会では、市の就農者支援体制の強化を提言するとともに、農業委員会活動をより充実したものとするために、担い手農家との意見交換会を継続して開催する予定です。



7 農業者の取り組み



石井洋子さん（右）
左側の2人は娘夫婦。（中）土岐杏奈さん（左）土岐直人

福山市本郷町は、県内の柿の産地で、石井洋子さんは柿専業農家に嫁いで25年を迎えました。

ご主人は早くに亡くなり、洋子さんが農業経営を継承し、市内に住んでいる弟さんと農業経営を行ってきました。現在は、今年4月に結婚した娘夫婦と4人で農業を営んでいます。

石井さんは、福山市農業委員の梶田富美子さんから農業者年金への加入を勧められ、将来の老後に必要と感じて、12月に通常加入しました。

経営内容は、2.5%の樹園地で、甘柿や渋柿を収穫して、干し柿用や渋を抜いた「さわし柿」を生産しています。

生産物は、主にJAと直接市場出荷を行っていますが、新鮮なフルーツを直接、消費者へ届けようと「JA福山市松永ふれあい市」や地元スーパーにも直接販売をしています。

今年4月から労働力が増えたこともあり、付加価値をつけようと「柿ジャム」の試作にもチャレンジしています。

「福山市松永町の柿は、甘みが強く、カリッとした食感が好評です。ぜひ一度味わってみてください」と石井さんが語ってくれました。



8 女性農業委員リレー

広島市農業委員 山本 雅子さん



11月24日、広島市役所の玄関前で幼稚園児は、広島市長、農業委員会会長と餅つきをしました。玄関前の水田に幼稚園児と農業委員で植えたモチ苗が稔り、10月に稲刈りをしたものです。最初に市長と農業委員会会長が園児の「ヨイショ」、「ヨイショ」かけ声でつき、次に、園児が市長と共に杵を持ち「ヨイショ」、「ヨイショ」とつきました。

熱い、熱いもちを、園児とお母さん方は「温かい、やわらかい」と言いながら丸めていきました。園児達は「きな粉」餅にして食べ、「おいしかった、もう少し食べたい」と言いながら餅つきを終えました。

この後すぐに、園児達は「二毛作」用の麦種をカップから可愛い手に取り、田んぼに蒔きました。土かけは、農業委員が担当し、この日は

終了。園児達は芽が出ておおきくなるのを楽しみのようでした。「麦がとれたら何をするのかな？」



広島市役所玄関前でもちつき



9 「農の雇用事業」の実施状況について

若者等の農業法人等へ就業を促進し、農業の担い手の確保・育成を図るため、農業法人等が、就農希望者に対して技術・経営ノウハウを身につけさせるために実施し、その実践的な農業の研修（OJT研修）に要する経費の一部を国が支援する「農の雇用事業」は、平成20年度の補正予算で事業化され、平成21年4月から研修を開始し、以後毎年2回の募集を行い、農業の研修を実施してきました。

これまでに全国で約7千人、広島県では延べ91経営体で122人が認可され、平成23年12月末現在では、延べ70の経営体で63人が研修を修了し、引き続き雇用されて農業の担い手、また自営農業の担い手として活躍しています。現在も県内の18経営体で25人が農業の担い手となるべく研修中です。

農業の担い手が高齢化し、担い手の減少と農業の衰退が懸念される中、農業法人等に雇用されて農業に従事する人は、若い人、非農家出身者を中心に増



研修生の集合研修（広島市9月26日）

加傾向にあり、今後の担い手として期待されています。

平成24年度からは、新規就農総合支援事業の一環として、45歳未満の農業経験の少ない就農希望者を正規雇用し、OJT研修に対し研修生1人当たり月額10万円を最長2年間助成する事業で、事業規模も3500人に拡大して実施される予定です。



10 農業法人等に対する指導相談窓口（平成23年度農業雇用改善推進事業）

農業会議では、新規就農者の増加と定着を図り農業経営を発展させることを目的に、農業法人等に対する雇用や労務管理に関する助言指導など農業雇用

改善推進事業を実施しています。相談等がありましたら指導相談窓口を活用して下さい。

（指導相談窓口）

広島県農業会議

社会保険労務士法人たんぽぽ会

☎082-545-4146

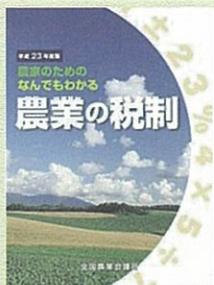
<http://h-kaigi.jp>

☎082-874-8947

<http://tanpopokai.com>



平成23年度版
農家のためのなんでもわかる農業の税制



所得税、法人税、財産税、消費税から国民健康保険税まで農業者の方々に関係の深い19の税金について、最新の税制を網羅。平成23年度税制改正に対応。

図書コード 23-21
定 価 700円

平成23年度版
勘定科目別農業簿記マニュアル



勘定科目別に記帳のポイントを整理。農業簿記の「実務手引書」としてはもちろんのこと、必要な部分を参照する農業簿記の「辞典」としても活用できる一冊。

図書コード 23-22
定 価 2,000円

平成23年度 よくわかる農家の青色申告



青色申告制度、手続き、記帳の実務、確定申告書の作成から申告までを、記入例を交えてやさしく解説。青色申告農家の座右の手引書。

図書コード 23-24
定 価 700円

平成23年度 農家相談の手引



農業委員会系統組織の組織運動や、農地制度から農業経営の支援施策まで農家にかかわる諸制度を、最新PR資料などで解説したオールカラーの冊子。

図書コード 23-17
定 価 800円

お申し込みは広島県農業会議まで
TEL : 082-545-4146 FAX : 082-246-1825

編集後記

新年明けましておめでとございます。

会長の新年のご挨拶と
おり、昨年は「東日本大震災」と「政府のTPP参加検討」で大変な年でした。

年明けからのTPP参加反対の署名活動、3月の東日本大震災、その後は、全国農業委員会会長代表者集会までの間、TPP参加反対の県民集会・全国集会に農林漁業団体、消費者団体、医師会等と連携してさらには国会議員の方々の協力もいただきながら取り組みました。農業委員の皆様にも積極的な取り組みをいただきありがとうございました。

全国農業委員会会長代表者集会における要請決議後、政府・国会議員への要請活動を実施しました。

国会においても衆議院予算委員会で「TPP協定交渉参加に向けた関係国との協議に関する決議」

が採択されました。

この中で、政府に留意を求める事項として、

- ①国民への十分な情報提供や幅広い国民的議論を行う。
- ②国内農林水産業や関連産業、地域経済に及ぼす影響が甚大であることを踏まえて、政府挙げて対応すること。

などを挙げております。この決議は、11月11日に野田首相が「TPP交渉参加に向けて関係国との協議に入る」と表明して以降、各界・各層から強い懸念が相次いでいることから、TPP交渉参加に前のめりな政府の姿勢に歯止めをかけるのが狙いと報じられております。

「これから長い闘い」になりますが、藏田会長の挨拶にもありますとおり、明るく希望の持てる農業・農村の将来が展望できるよう、課題解決に取り組みます。

今年も、皆様のご支援・ご協力をお願いします。